

ばってん

事務長会報第42号

平成 29 年 10 月 1 日

長崎県公立学校事務長会
長崎県立長崎北陽台高等学校内

〒851-2127
西彼杵郡長与町高田郷 3672
電話 (095)883-6843



ホテルモントール長崎

TEL 095-822-2251
長崎市筑後町4番10号

将来への「おかえし」

副会長（佐世保北中学校・佐世保北高等学校）小森 孝幸

事務長になって、やっと1年半が過ぎようとしています。
毎日、諫早から佐世保までの往復3時間の車通勤には未だに慣れません。

車内では、落語や英語を聴いたり、ハンドグリップで握力を鍛えたり、大声で歌ったり（おかげで校歌は完璧！）で退屈を紛らわしています。

1年間での車の走行距離は地球一周とはいきませんが3.3万キロを走り、退職まで続けると愛車の走行距離がなんと20万キロを超えることになり、耐えてくれるかが心配です。

ただ、多良山系から昇る朝陽や大村湾に沈む夕陽など、季節によって変わる美しい風景を眺めながらの運転は、1日の不安や後悔を小さな事のように思わせてくれます。

学校では、昭和の時代以来の勤務で、当初は会計・物品事務の煩雑さに驚嘆し、「何でこげんとばせんばと?」「知らんやったあ!」を繰り返しつつ、周辺の学校や事務長会から知恵や情報をいただきながら、日々何とか生徒や先生、保護者の方々と向かい合っています。

近況はさておき、最近、お盆での帰省もあってか、我が家のご近所で「おすそわけ」やら「いただきもの」のやり取りが何回かありました。今は少なくなりましたが、私たちの世代では、よくご近所からの野菜や魚など「おすそわけ」「いただきもの」がありました。

家の中にはたくさんあっても、それらをありがたく頂戴して、いただいた物相应に、「おかえし」をしながら、互いに気遣い合って、情報や物を共有していました。

ここ数年多くの先輩方が退職していますが、私達は、この多くの先輩方から、たくさんの「いただきもの」「預かりもの」や「おすそわけ」をいただけてきました。

時には、いただくまでに喧しく叱られたり、仕事の量まで「おすそわけ」されて苦労したこともあります。……ただ、先輩方からの「いただきもの」に「おかえし」として

私達ができる、後輩の皆さんや近隣学校への「おすそわけ」「引き渡し」をちゃんとしてきたのだろうか、できているだろうかを考えることがあります。

事務長となって、考えることを他人に任せてしまっていないか、どうせ無理と言い訳して我が身への振りかかりを避けていないか、同僚達に耳に痛いことでもはっきり言っているか……果たして、自問してみると、忸怩たる思いにもなります。

現在、我々の仕事は、休暇システムや出張システム、履歴書の電算化など次々にシステム化が進み、今後も専門性はどんどん縮小していくでしょう。米国では、今の速さでAI（人工知能）化が進めば、失われる職種としての第3位に事務職が挙げられてます。

また、「チーム学校」実現のためとして、学校教育法での我々の職務規定が「事務に従事する」から「事務をつかさどる」に改正されました。限られた定数の中で「何を、どこまですべきなのか」、この「つかさどる」とはどういう意味なのかを真剣に考える必要はないでしょうか。

こういう何かが変わっていく時だからこそ、これまで学校事務として向き合ってきた者として、将来への「おかえし」を、煙たがられながらももしっかりやっていかなければなりません。

昨今は、県教育委員会との距離もより近くなったように感じますし、事務長会の中で大いに議論し、現場からの意見・提案を積極的に伝えることができるいいチャンスだと思います。

ちなみに私が最近気に入っている言葉は「バカかお前は。何とかなと思うな、なんとかせい!!」……昔先輩方からよく投げられた言葉です。



「屋上から」

佐世保商業高等学校 辻 信之

これまで屋上には何度上ったことだろう。しかし、景色をゆっくり楽しんだことはなかったように思う。勤務してきた学校からの眺望はどうだったか思い出せない。

新採で勤務した学校は4階の教室が雨漏りし、予算もなかなか付かず、どうしようかと話をしていると、用務員さんが「屋上防水はブローンアスファルトを溶かして流せば止まる。防水工事に使われている材料で、建材店で買えるから安くできる。」

そこで、事務室総出で、購入したブローンアスファルトを砕いてやかんに入れ、廃棄予定の木製の生徒机椅子を薪にして火を付けて溶かし、屋上までロープで引き上げ、漏水箇所付近の防水シートの継ぎ目に流していった。半日がかりの作業であったが、雨漏りはピタリと止まった。

それから間もなくして防水工事の予算令達があったのは笑い話となった。

私に施設のイロハを教えてくれたのは用務員さんだった。建物から設備まで、何でも知っている人であった。夜間定時制で、月曜から土曜まで21時半まで5年間勤務し「青春返せ！転職したい！」と叫んでいた私に、用務員さんの豊富な人生経験や謙虚な態度、そして愉快な話は、自分自身を直視することができ、和をもって仕事をする事の大切さを教えられ、そして的確なアドバイスで、転職した後も公私にわたり何度も助けられた。

この頃、屋上に上ると、30年以上前のことが思い出され、あの用務員さんと出会えたから、ここまで勤められたのだと思う。

私にとって用務員さんは人生の師匠。

感謝！ 感謝！



昔むかしあるところで

諫早商業高等学校 園田 俊和

学校事務職員に採用されてから今の学校で12校目の勤務となります。2度目の異動で勤務した学校は、五島列島福江島の完全複式学級へき地2級地の小規模校でした。それでも分校があったので、事務職員が配置されていました。児童数も全校で男女合わせて30数名でした。職員も校長、教頭、教諭3、事務職員、用務員の総勢7名と分校の教諭3名、用務員1名とまさに最小規模でした。何をやるにもこじんまりしていて、運動会などは乳幼児から老人までのまさに地域をあげての一大行事でした。それでも、子供の数が少ないので、種目毎に、第1のコース〇〇君、第2のコース××君というようにいちいち名前をアナウンスしてからのスタートとなる具合でした。もっとも、全員をア



ナウンスしても3～4名程度しかいないのですが、そうでもない限り時間が持たなかったのです。当然のことながら、業務量も少なく、さし当たっての仕事が無い日もありました。この時ばかりは、さすがの私も仕事をもっとしたいと、考えないこともありませんでした。

そのような極小規模校であるので、時間に余裕がある（暇な）時は、分校に出向いて情報収集をしたり、グラウンドの草刈をしたり、遊具のペンキ塗りをしたりして、勤務時間の有効活用（暇つぶし）に努め、子供たちが放課後になるのを待っていました。放課後は、10数名の男子児童全員を相手にソフトボールをして過ごすのが日課でした。ある年は、運よく市のソフトボール大会で優勝してしまったこともありました。私に付き合ってくれた子供たちに感謝しています。

あれから30数年。残り数ヶ月になってしまいましたが、血圧と血糖値と尿酸値を気にしながら、今夜も規則正しく飲んでいきます。皆さん、健康と・・・には気をつけて、元気に頑張ってください。

※写真は、今は廃校になった小学校そばにかかる戸岐大橋です。

五島南高校に赴任して

五島南高等学校 井戸 弘明

平成29年4月に、五島南高校へ新任事務長として着任し、早や5ヶ月が過ぎようとしています。

五島南高校は、「誠実 努力 積極」の校訓のもと、地域に根差した教育活動を実施し、昨年度、創立50周年・開校67周年を迎えました。また、平成30年度からは、離島留学制度「夢トライコース」がスタートし、併せて、高校における通級指導も開始されることから、職員一丸となり開設に向けて取り組んでいます。

さて、私は、平成6年4月初任校である宇久島の小さな中学校で6年間勤務し、今回の異動で離島勤務は、2度目ということになります。今、私は、三井楽公舎に住んでおります。この三井楽は、「肥前国風土記」に『美弥良久（みみらく みねらく）の崎』として登場し、遣唐使船最後の寄港地であったといわれています。ゴールデンウィークに、この寄港地に足を運んでみました。空海の名文“日本最果ての地を去る”という意味の「辞

本涯」の碑や、遣唐使として旅立つ我が子の無事を祈る母の歌を刻んだ碑が建立されていました。この地に立って、東シナ海を見渡したとき、先人たちは、どのような想いで大陸に渡ったのかと思うと、私は胸を打たれ、目頭が熱くなるものがありました。

2番目の赴任校は、長崎工業高校（定時制）でした。そこで、初めて県立学校を経験することになります。中学校では、一人配置校であり、自分のペースで仕事を行っていましたが、県立学校へ異動した当初は、組織で仕事することに戸惑い、なかなか慣れなかったことを覚えています。仕事の面では、厳しく指導もされました。ただ、職場の皆さんに助けられ、楽しく仕事ことができました。当時、事務室にいた皆さんとは、今も連絡を取り合いながら親交を深めています。本当に私の財産と思っています。

現在、“学校の働き方改革”や“業務改善”について議論されております。事務室においては、監査や会計検査の対応、また、



施設改修における立ち会い等、日々の業務に追われている現状に、事務長として効率的かつ効果的に業務を整理することができないか日々考えております。そのためには、業務の従事状況や負担感を優先的に把握し、改善に向けたマネジメントを行うことが大切ではないかと考えております。

涙の辞令とウィンナー娘

桜が丘特別支援学校 北島 恵

平成29年3月、渡された辞令はまるで召集令状のようでした。「お断りします。さようなら。」と言えたらスカッとジャバンだったのですが、そんなことが到底言えるはずもなく、怒涛の4月が普通にやってきたのです。この状況が夢なら。いや白昼夢なんじゃね？ けれどもそれは、やはりまぎれもない現実なのでした。

始業式あとの昼食時、事務室に高等部の女の子が乱入してきます。ちょっと声をかけてみたら、返ってきた言葉は、けだるい感じの「あんただれ？」でした。いやいや、さっき自己紹介したし。っていうか、いま結構なダメージ受けたんですけど。唐突に強烈な洗礼を浴び萎えかかっている私に、いつの間に弁当を確認したのか、今度はすかして「ウィンナーちょうだい」と言います。迷った末、自分の箸でつまんで口に持って行ってやると、あどけない顔でパクリとほおばり、そして、嵐のように去っていきました。聞けば彼女は、心の思いと表現をうまく

最後に、新任事務長として勤務することになった五島南高校で、経験すべきことは何でも経験し、学び取っていきたいと思っています。また、この五島を楽しみたいと思っています。先輩方よろしくをお願いします。

コントロールできず、時に激しい行動に出てしまうという病気を持った子でした。事務室乱入の目的も、実は新参者の偵察ではなかったのかと、あれは彼女なりの「あいさつ」だったのかもしれないと、後になって考えました。ウィンナーが大好きだということで、ちょっとポイントが上がることを願いたいものです。

本校は病弱の特別支援学校ですが、様々な部分で問題を抱える子どもが年々増えています。前述の彼女も、始業式後1日、2日登校したあと姿を見せず、次に会ったのは終業式の日でした。「チーム学校」として、そんな現状を少しでもなくすよう取り組んでいる中、事務室としても「チーム学校」の柱に位置付く立場でありたいと考える今日この頃です。

ウィンナー娘の襲来はとても緊張しますが、登校してくるとやはりちょっとうれしいものです。そんな小さな喜びを見つけて、辞令の現実を忘れてしまおうと考えている今日この頃でもあります。



「第65回全国公立高等学校事務職員協会九州協議会研究大会(長崎大会)」を終えて

佐世保南高等学校 吉田 信二

平成27年3月、佐世保南高校への異動の内示を受けた直後、事務職員協会長への要請の電話。久しぶりの学校でなにもわからない自分になぜ?と思いつつももっぱら断らない性分から軽い気持ちで引き受けたのが今年6月の事務職員協会九州大会への始まりでした。

27年度の鹿児島大会の視察を皮切りに、28年度熊本大会の視察でいよいよ長崎大会へ取り組みうとする中での昨年4月の熊本地震。未曾有の災害であり、誰もが熊本大会開催は無理と考える中、1ヶ月遅れの開催が実現しました。開催決定までの大会関係者の様々な葛藤、苦労は推し量れません。若干の日程短縮はあったものの大会最後のスタンディングオベーションに象徴されるようにまさに記憶に残る大会でした。

このことで本県はエネルギーをもらい、熊本の思いを引き継ぎながらしっかりと大会開催をするというモチベーションが高まったと感じました。熊本からの詳細な引継ぎを受け、長崎も本格的な準備に取り組みました。もちろん準備はその前から行なっていました。まず、特別講演の講師として、「(株)ジャパネットたかた」元社長である高田明氏をお願いしました。そして昼食時に流すドローンによる佐世保の美しい映像をSandyTripのkazuさんに依頼し、それがきっかけで情報交換会でのSandyTripの出演が実現しました。また、本校邦楽部の箏の演奏、佐世保商業高校のすばらしいクロスステッチタペストリー展示と、「どうせ佐世保で開催するのであれば」と佐世保にこだわりました。結果、充実した情報交換会、講演会になりました。

研究発表についても情報を事前に提供することにより、活発な質疑応答が行なうことができ、発表内容と相まって密度が高い発表とな

りました。加えて、要約筆記や補聴器使用者といった配慮が必要な方への対応等、スタッフのきめ細かな対応と小さな工夫の積み重ねが「全体を通して充実した大会」へと繋がったと考えています。特に今回は熊本大会で実現しなかった「全体での情報交換会」が盛況に開催できたことも大きな成果でした。これらを裏付けるように大会終了後、各県の協会長さんからも「大会が大変好評であった」とのメールをいただきました。

事務(局)長さん方には大会開催へご理解いただき、多忙な事務室の中にありながらもご協力いただきましたことに感謝申し上げます。おかげで「長崎県らしいおもてなし」で開催することができました。

学校事務職員をとりまく環境も、宮崎県の「採用一元化の見直し」や佐賀県の「教育事務採用の導入」といった学校現場にとってよい動きがあるものの、先が見通せないとも感じます。このような状況下で働きやすい環境作り、情報の共有など事務長会と事務職員協会がそれぞれの役割により「さらなる相乗効果を！」と思う次第です。

先日、佐賀県への引継ぎも終わり、長崎大会実行委員長の役を全て終えました。今大会が佐賀県へ引き継がれ、それぞれの県の工夫が加わり次の長崎大会がさらにすばらしい大会となることを確信しています。

最後に、今大会ではすばらしいスタッフに支えられたことに、そして、このような機会をいただいたことに感謝を申し上げ、この投稿を閉じさせていただきます。



畳の上の力持ち

長崎県高等学校長協会 会長 野田 定延
長崎県立長崎東中学校・長崎東高等学校 校長



このたび長崎県高等学校長協会の会長を仰せつかりました、野田定延と申します。どうぞよろしくお願いいたします。校長職に就いてから今年度で4年目となりました。これまで、波佐見高校に2年、島原高校に1年勤務いたしました。いずれの学校でも事務長さん方には大変お世話になりました。

校長になった1年目、教頭時代の倍以上の文書が校長室に回ってきて、大いにとまどったことを覚えています。学校というところは、事務室の働き無くしては成立しない、ということを頭では理解していたものの、膨大に増加した文書の量からそのことをようやく実感しました。その文書作成・起案に加え、来客への対応、施設設備の整備・補修、学校諸納金の集金、職員の出張・研修、そして私たちの給与支給の手続きなど、「緑の下の方力持ち」という言葉がありますが、この言葉は、まさに、事務長さん方をはじめとする事務室の皆さんのことを指しているのだろーと思えます。授業、学校行事、部活動などで生徒たちが輝くために、各学校で事務室の皆さんが日夜汗を流してくださっていることに、そして学校を支えていただいていることに心から感謝します。

ところで、この4月、セントヒル長崎で開催された事務長会の教育懇談会に出席させていただきました。事務長さん方から大歓迎され（一斉攻撃を受け、しかも波状攻撃を受け）とても楽しい時間を過ごすことができました。事務長会の教育懇談会出席は、今回で2回目でした。高校教育課の県立学校人事班参事時代に初めて出席させていただいたとき、「なぜ畳席だろうか」と不思議に思ったことを鮮明に覚えています。同じセントヒル長崎を会場として行う、校長会や教頭・副校長会の教育懇談会は椅子席なのです。そして、この4月の事務長会教育懇談会も畳でした。個人的には畳での宴会は大好きです。しかし、最近の宴会では、畳ではなく椅子席の方が多いように思います。数

年前、畳敷きの上にテーブルと椅子をおいた宴会がありました。椅子に座って始まった宴会が、酒が進むうちに一人二人と畳の上に座りはじめ、最後は全員が畳の上に座っているということがありました。単なる宴会好きかそれとも日本人のDNAなのか。ここで、なぜ事務長会は畳か、私なりに分析してみました。畳での宴会には、酒量が確実に増えるという問題があるものの、「いすに縛られない人間関係づくりができる」「自由な発想ができる」「落ち着く」「輪が大きくなりやすい」などのメリットが挙げられるのではないかと思います。事務長さん方の業務を考えたときに、自校教職員のみならず、他校教職員や人事班との人間関係づくりは不可欠です。そうすることにより、業務が円滑に進むのは間違いありません。さらに、日常のとても大切な業務に加え、地震、台風への対応など自然災害への備えや対応、野球の全校応援等の経費捻出など、臨機応変の対応を求められるのも事務長さん方です。事務長会は、単なる酒好き、宴会好きの集まりではないと確信しております。つまり、事務長会のDNAである畳文化は、1年間のスタートに当たり、お互いに、料理や酒や会話を楽しみしながら、自然とくつろぐ事ができるところに、その文化のすばらしさがあるのではないかと思います。それが、ひいては生徒のためになっているのだと思います。

価値観が多様化し、情報量の多さやその伝わる速さに目を奪われる今日、生徒たちを取り巻く状況も刻一刻と変化しています。解決が難しい課題が山積する中、私たち校長だけの知識や経験で対応するには限界があります。校長会と、豊かな経験と知見をお持ちの事務長会が、お互いに情報交換し知恵を出し合い、問題解決に向けた糸口を探り出していくことが、本県の未来を担う子供たちの健全な成長と教職員の働きやすい職場環境作りにつながります。校長会として、「畳の上の力持ち」である事務長会の皆様と、ともに助け合い、ともに高め合い、誇りと自信を持って長崎県の教育をリードしていきたいと思えます。来年の教育懇談会も楽しみにしております。どうぞおてやわらかにお願いいたします。

編集後記

昨年の熊本地震からの復興が少しずつですが進んでいるなか、今年は北部九州豪雨により福岡県を中心に大きな被害がありました。その他、全国でも大雨や雷等による被害が相次ぎました。自然災害の怖さとともに、我々の身にいつ起こってもおかしくない状況であることを感じました。

4月に赴任した特別支援学校では、子供たちが学校にいるときの災害に備えて、「子供たちを守る」ために日頃から避難訓練や備蓄等に全職員が真剣に取り組んでいま

す。事務室も各人が役割を認識し、対策に取り組んで行かなければならないと思っています。

今回、野田校長協会会長様をはじめ、小森副会長さん、今年度で御勇退される方々、新任の方々、そして、事務職員協会九州協議会研究大会長崎大会実行委員長を務められた吉田事務長さんに執筆をお願いしましたところ、快くお引き受けいただきまして心より感謝申し上げます。

「ばってん」がより良いものとなるよう、今後も引き続き皆様のご協力とご指導をよろしくお願い致します。(K・H)